

ブリーフセラピーネットワーク投稿規定

(2013. 4. 1.)

編集ならびに査読の指針

1. ブリーフセラピーネットワーク(以下、本誌)はブリーフセラピー・ネットワーク・ジャパンの機関誌であり、1年に1巻を発刊する。
2. 本誌は、特定の心理療法のアプローチに限らず、広く心理療法的実践的研究の発展に貢献することを目的として査読を実施する。
3. 本誌はブリーフセラピーネットワーク・ジャパン編集委員会の責任のもとで編集ならびに発刊を行う。
4. 本誌への投稿に際して、筆頭著者は必ず本会会員に限り、論文は未発表のものに限る。ただし、特集論文やその他の企画論文においては、その限りではない。
5. 本誌の論文の種類には、原著(Article)、研究報告(Research and Practice)、ブリーフレポート(Brief Report)、特集論文(Special Issue)、その他の企画論文の欄をもうける。
原著：独創性が非常に高い内容であること。理論研究(展望含む)、仮説検証型の実験・調査研究だけでなく、事例を提示し、実践の仕方について検討ならびに報告がなされている事例報告を含む。
研究報告：独創性が高い内容であり、事例・調査・実験・理論を取り上げた内容であること。
ブリーフレポート：独創性を問わないが、事例・調査・実験・理論を取り上げた内容であること。
特集論文：基調講演、招待講演、特別企画、招待論文、大会報告やシンポジウムの

話題提供(事例検討含む)、文献紹介(国内外の論文や専門書)を中心にした編集委員会が本誌のために企画した内容となる。

6. 投稿論文については編集委員会が審査を行った上で、採否を決定する。
7. 投稿論文の査読は、編集委員を含む会員中の適当な方2名以上に依頼する。査読者の意見が分かれる場合には、あらたに査読者を依頼して意見を求めることがある。
8. 投稿論文の査読は、論文の体裁に関する形式面、独創性・論理性などについての内容面、プライバシーなどについての倫理面などについて多面的かつ多角的に行う。
9. 査読意見を元にした編集委員会の審査の結果、論文の修正を求めることがある。この場合の再提出については、投稿規定に沿うこと。
10. 修正された投稿論文についても再度審査を行う。ただし、修正された部分に新たな問題がないかぎり、修正を求めた部分が修正されているかどうかの審査に限定する。
11. 投稿論文の種類(原著、研究報告等)は査読意見を元に編集委員会で最終的に決定する。

投稿論文書式と投稿先

1. 論文はワープロソフトや表計算ソフト、イラスト描画ソフトを用いて作成すること。A4判の用紙に横書きとすること。原則として、常用漢字・現代仮名づかいを用い、数字は算用数字を用いること。

2. 余白は 上 30mm、下 25mm、左右 22mm とし、字体は、原則として日本語表記は MS 明朝、欧語表記および数字は Century を使用すること。
3. 投稿原稿の書式は以下のようにする。なお投稿用原稿の「ひな形」を用意してある投稿希望者は、編集局まで「ひな形」を請求しても良い。

フォントの種類と大きさ

1 頁目の冒頭箇所(タイトル、執筆者情報)

論文タイトル MSゴシック 14ポイント

氏名 MS 明朝 11 ポイント

所属 MS 明朝 10.5 ポイント

論文タイトル MSゴシック 12ポイント

本文 10.5 ポイント

文字数・行数の指定

文字と行数は、冒頭の 1 段組箇所は 40 文字と 38 行を指定すること。冒頭箇所以降ならびに 2 頁目の設定は、20 文字と 38 行の「二段組み」を指定すること。

その他

見出しは、適宜設定し、MS ゴシックを使用すること。強調体や斜体、下線は多用を避けて欲しいが必要に応じて使用を認める。

上記を原則とするが、編集委員会が若干の変更を容認する場合がある。

4. 原稿は、特に分量を定めないが、最大でも 400 字詰め原稿用紙 40 枚分相当 (図表含む) であること。
5. 図表は、図 1、表 1 など順序をつけて本文に示し、それぞれに題を和文で記載すること。また投稿者が本文に図表をレイアウトすること。図表内の字体は、本文と同様

にすること。図表は、その大きさを本文に換算して原稿枚数に算入すること。

6. 本文中に文献を引用した場合は、著者名と発行年を記載し、引用した箇所を「」で示すこと。

a) 文献に記載された通り直接引用

例： 「○○○」(宮田, 2000)

b) 文献を要約して間接引用

例： Erickson(1964)は、○○と指摘した。

著者が複数いる場合は、初出のみ第 3 著者までの名前をあげ、それ以降は筆頭者の名前をあげる。その際の記載は、和文献であれば「ら」、洋文献であれば「et al.」を用いること。引用文献は文末の引用文献一覧に引用順に一括して示すこと。

7. 本文末での引用文献の記載は以下のようにする。

a) 引用文献は、著者の姓を規準にしてアルファベット順に一括して記載すること

b) 同一著者で複数の文献がある場合は、発刊年順に記載すること。同年に同一著者の文献が複数ある場合には、2010a、2010b のように区別して記載すること。

例)引用文献

著者名 刊行年 タイトル, 掲載誌名, 巻(号): ページ.

Howard, K.I., Kopta, S.M., Krause, M.S. and Orlinsky, D.E. 1986 The Dose-Effect Relationship in Psychotherapy American Psychologist, 41(2): 159-164.

金沢吉展 2006 臨床心理学の倫理をまなぶ, 東京大学出版会.

Kaplan, G. A. , Camacho, T. 1983 Perceived Health and Mortality : A Nine-year

Follow-Up of The Human Population Laboratory Cohort, *American Journal of Epidemiology*, 117(3) : 292-304.

川喜田二郎 1967 発想法, 中央公論社.

Lambert, M. J. (Ed) 2004 *Handbook of Psychotherapy and Behavior Change* (5th ed.), John Wiley & Sons.

宮田敬一(編) 1994 ブリーフセラピー入門, 金剛出版.

成瀬悟策 1997 エリクソンを偲んで, ブリーフサイコセラピー研究, 6 : 45-57.

大野清志 1996 指定討論2 まとめ, ブリーフサイコセラピー研究, 5 : 157-159.

津川律子・近藤幸子 1993 『心理臨床学研究』にみる臨床心理学的研究の現状: 創刊号から8年半の掲載論文から, 心理臨床学研究, 10(3) : 82-87.

吉川悟・東豊 2001 システムズアプローチによる家族療法のすすめ方, ミネルヴァ書房.

c) 訳本を引用する場合は、訳者とその発行年ではなく、原典の著者名とその発行年を最初に記載し、括弧内に訳本の書誌情報を載せること。

Zeig, J.K. (Ed) 1980 *Teaching Seminar with Milton H. Erickson*, The Milton H. Erickson Foundation. (ゼイク, J.K. 編 成瀬悟策監訳 宮田敬一訳 1984 ミルトンエリクソンの心理療法セミナー, 星和書店.)

d) インターネット上の Web サイトより引用する場合は、著者名、年号、資料題名、URL、アクセス日の順に記載すること。

Thomas Szasz 2010 エリクソン財団ニューズレター

<http://www.erickson-foundation.org/ipages/newsletterpdfs/vol-30-no-3.pdf> 2010.10.26 アクセス

8. 論文の種類、表題、執筆者氏名、所属機関名、連絡先などは添付票に記載すること。なお、付記や謝辞のある場合は、本文中に記載すること。

9. 投稿論文は、(1) 添付票、(2) 本文、(3) 図表、3つを別々のファイルで作成すること。論文の送付は e-mail の添付ファイルを用いて、「ブリーフセラピーネットワーク」編集局(日本女子大学人間社会学部心理学科青木研究室)に送信すること。編集局は、論文を確認次第、編集局より受稿通知を e-mail にて送る。もしも数日間連絡のない場合は、投稿者から編集局に必ず問い合わせをお願いする。

10. 執筆者による校正は1回限りとする。その際、脱字・誤字・誤植以外の訂正、特に大幅な文章の挿入・削除は認めない。なお本誌として統一した体裁を保つために、編集委員会が表記等を修正することがある。

11. 本誌は会員である執筆者に10冊送付する。本誌の閲覧や配付の際は、対人支援職の専門家とその養成課程にいる大学院生に限定するため十分に配慮した上で行うこと。

12. 投稿論文送付および問合せ先
「ブリーフセラピーネットワーク」編集局
〒214-8565 川崎市多摩区西生田 1-1-1

日本女子大学人間社会学部

青木みのり研究室

電話&Fax : 044-952-6894 (直通)

メール : VEN02440@nifty.com